

素敵なクラスづくりは しっかりした組織づくりから

人間というのは一人では生きていけない生き物だね。

必ず集団を作り、その中で生きている。自分一人ではこの世の中を生きていくことができない。

「俺は一人でも生きてみせる！」と言ったって、住んでいる家は自分で建てたわけじゃなし、食べ物自分で畑を耕したわけじゃなし、着ているものはどこかで作られたもの。君たちの衣食住すべてが誰かさんのおかげ。

それに何よりも、今君たちがこうして生きているのは、おうちの人たちのおかげだ。生まれたばかりの頃、自分では食べることをできないのに、ちゃんと育ててくれたからこそ、今ここにいます。

最近、親の子ども虐待（ぎゃくたい）というニュースをよく聞かないかい？親が我が子を殴ったり、おしおきしたりして死なせてしまう事件だ。なんてひどい親！なんて感想を持った人もいるかも知れないね。

でも君たちは今ここにいます。ここで笑ったり、遊んだり、友達とけんかできたりするのも（けんかしろとは言わないが）おうちの人たちのおかげだね。

そんな風に、みんな誰かのおかげで生活しています。

そして、好むと好まざるとに関わらず、何らかの集団に所属しているね。

君たちがこの2年4組になったのも、自分から進んでではないでしょう。

しかし、集団に所属することになったその時から、また好むと好まざるとに関わらず、何らかの仕事をしなくてはならないのだ。

ということで、ここでひとこと。

一人はみんなのために、みんなは一人のために

こんな言葉知ってるかい？

この言葉、実はちょっと古いと人は言う。

「三銃士」というお話を知ってるかな？

このお話、フランスの新聞「シエクル」の小説として、1844年3月から連載されたものです。そんな昔のことは誰も知らないが、作者はアレクサンドル・デュマ。私の大好きな小説「嵐囃王」（がんくつおう）（あるいは「モンテクリスト伯」ともいう）の作者です。小学生のころ子ども向け「嵐囃王」を読んで、何と面白いお話なのかと感動しつつ読んだものです。

この「三銃士」の主人公はダルタニャン、そして三銃士がアトス、ポルトス、アラミスの3人。で、



何が「一人はみんなのために、みんなは一人のために」かと言うと、三銃士が剣を合わせて誓って言う言葉がこれだ。この間映画の「三銃士」を見ていたらこのセリフ言っていたんだ。

話は戻るけど、この集団2年4組も、中学校の一つの学級です。

中学校の学習内容をきちんと学ぶことや、中学生として、自分の進路を考え、選んでいくこと、また、将来社会人として必要な力を身につけることなど、目的を持った集団です。

その目的の実現のために、一人一人は役割を分担して、みんなのためになることをやっていってもらうことになります。

そういう意味で、一人一人は自分の仕事に責任を持って取り組んでいってください。

そしてみんなは、誰かが困っていたときには助けてあげたり、協力したりしてもらうことになります。

そうすることによって、この集団も高まっていき、すばらしい集団となることでしょう。

また、そのことにより、一人一人も成長していくことでしょう。

そのような仲間であってほしいと思います。

さて、組織作りをしていく中で、もう一つ言っておきたいことがあります。

それは、係・班や座席などを決めるときの「好きな者どうし」という声です。何か仕事をするときにも、その仕事を好きな者どうしで、という声が強いです。

昨日も掃除の班のことで言ったけど、好きなものどうしで班をつくった方がいい時もある。

このような気持ちは自然なことだと思います。好きな友達と班を作れば、仕事の能率が上がったり、自分の意見を強く言えたり、意見の衝突が少なかったりということがあってもいいかもしれません。

ですがこれから先、社会に出ると、そんな都合よく気の合う者だけ、好きな者だけで集団が作れるでしょうか？きっとそんなことはないでしょう。

それともう一つ、考えの違う者、一度も一緒に仕事をしたことのない者、何となく気にくわない者と組んでみると、案外と新しい発想が生まれるものです。気の合う者どうしでは、結局自分の発想を抜け出ません。そういった意味で、同じクラスになった仲間と力を合わせて仕事をする中で、友達の新しい面を発見し、友達の良さをお互いに知り、学んでいくことができるのではないのでしょうか。

これから先、いろいろな係を決めます。座席を決めます。班を決めます。

そういう中で、一人一人が、クラス全体のことを考えること、ほかの一人一人のことを考えることが必要です。より楽しい学級生活を作るために、自分の世界を広げていく努力を望みます。

☆この学級通信中に登場する挿し絵と表紙は講談社刊行の「痛快世界の冒険文学」第21回配本「三銃士」によります。

原作：アレクサンドル・デュマ

(1802~1870。フランスを代表する人気作家。)

著者：藤本ひとみ 画家：東逸子



藤本ひとみ・文 東逸子・挿絵

三銃士

恋と野心に命をかける快男児!

騎士道の都・パリ。
友情に結ばれた
三銃士とダルタニヤンの
痛快無比の大冒険。

鳴和中学校
2年4組学級通信

夢空間

No. 6
2002.4.9